

解答例

適性検査Ⅰ

1 100点

〔問題1〕 30点

芽を出す時期がバラバラで、どのように世話をしても、人間の想定したとおりに育てられないということ。(48字)

〔問題2〕 20点

雑草が生えているかんきょうによって、早く芽を出したほうがよい場合もあれば、おそく芽を出したほうがよい場合もあるから。(58字)

〔問題3〕 50点

(省略)

適性検査Ⅱ

1 40点

〔問題1〕 16点

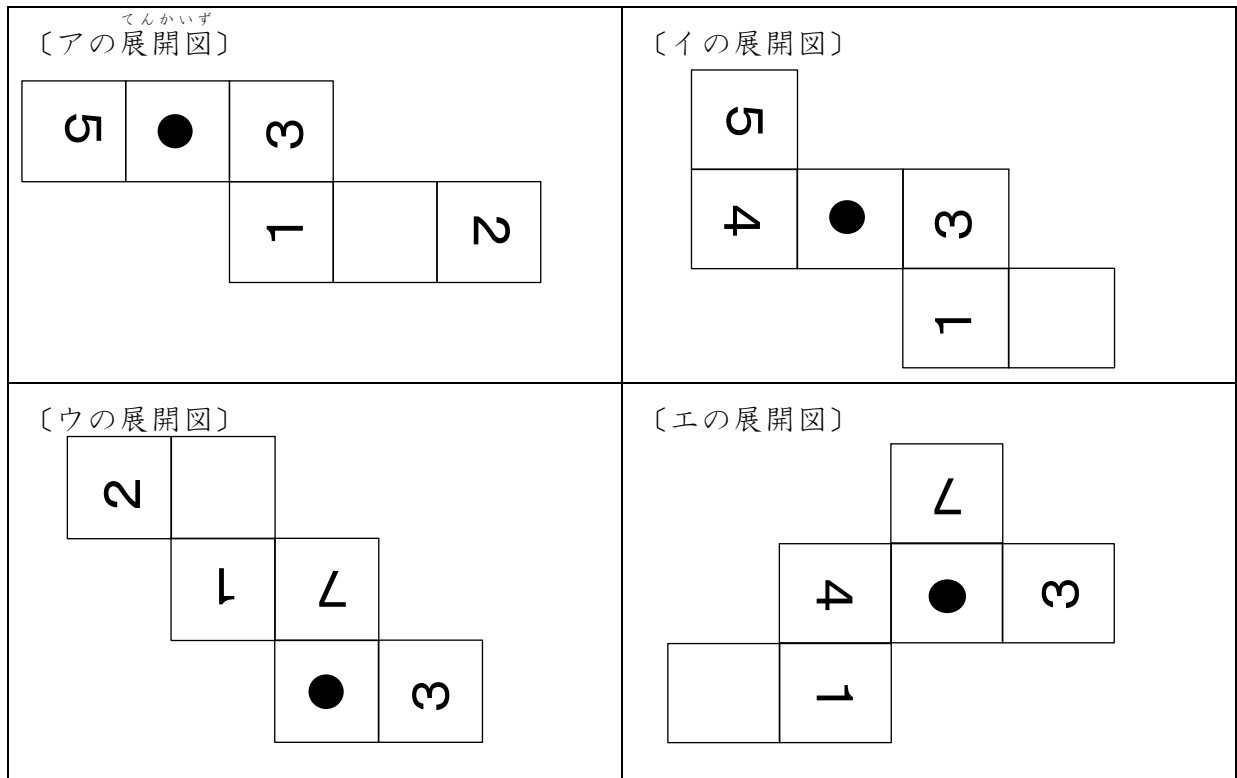
14	21	28
16	24	32

〔説明〕

AとCの和はBの2倍になっていて、DとFの和はEの2倍になっている。
したがって、BとEの和の3倍が、6個の数の和と同じになる。
 $135 \div 3 = 45$ なので、BとEの和が45になる場所を見つければよい。

〔問題2〕 24点

〔アの側面に書く4個の数〕				〔イの側面に書く4個の数〕			
1	2	3	5	1	3	4	5
〔ウの側面に書く4個の数〕				〔エの側面に書く4個の数〕			
1	2	3	7	1	3	4	7



2 30点

〔問題1〕 15点

図1より、主ばつに適した林れいは、50年以上であることが分かる。図2の2017年の林れい構成をみると、主ばつに適した林れい50年を経過した人工林の面積は大きいが、林れい30年よりもわかい人工林の面積は小さい。1976年、1995年、2017年の変化から、林れい50年以上の人工林が主ばつされると、しょう来、主ばつに適した人工林は少なくなっていくことが予想される。よって、利用することのできる木材の量が減ることが課題である。

〔問題2〕 15点

(選んだ二つを○で囲みなさい。)

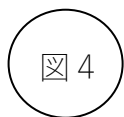
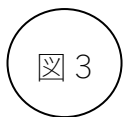
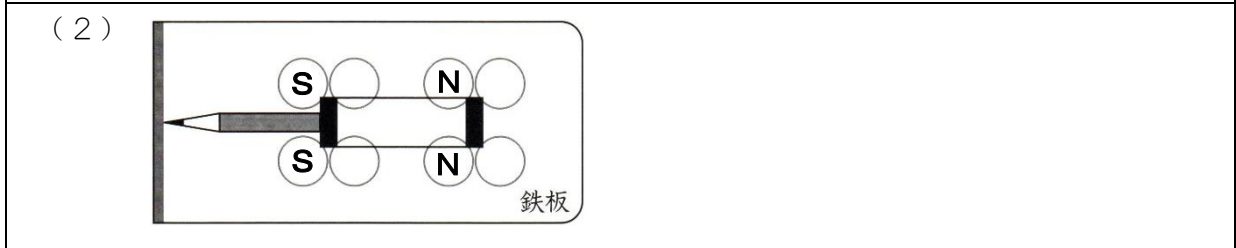
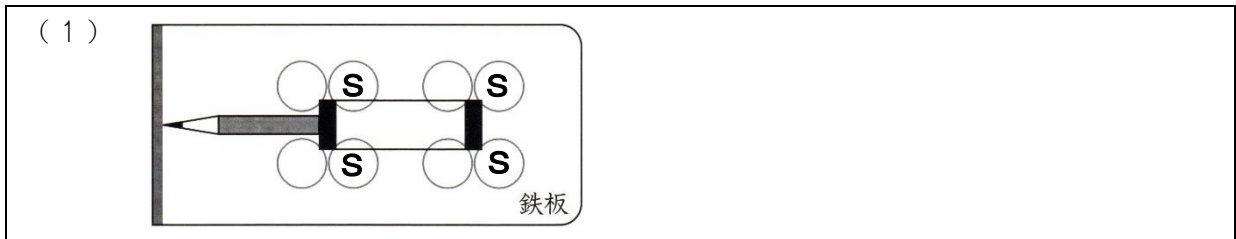


図5

図3のように商品を生産する立場の人たちが、間ばつ材を使った商品を開発したり、利用方法を考えたりすることで、さまざまな商品が生まれる。また、商品を買う立場の人たちも、図4のような間ばつ材を知ってもらう活動を通じて、間ばつや、間ばつ材を使った商品に関心をもつ。これらの活動から、商品を売ったり買ったりする機会が生まれ、間ばつ材の利用がそく進される。

3 30点

〔問題1〕 14点



〔理由〕

図6から、㉔は㉓に対して、つつの右側のじ石の極は変わらないが、左側のじ石の極は反対である。図7のイより、鉄板に置く4個のじ石のうち、右側の2個のじ石の上側の極は変えずに、左側の2個のじ石の上側をN極からS極に変えるとよいから。

〔問題2〕 16点

(1) 2個

(2) 〔大きい場合〕 ②

〔理由〕

①はA方向がそろっていないので、N極とS極が引き合う部分と、N極どうしやS極どうしがしりぞけ合う部分がある。それに対して、②はA方向がそろっているため、ほとんどの部分でN極とS極が引き合う。そのため、①より②のほうが引き合う部分が多いから。